

令和4年度 事業報告書

(期間：令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

社会福祉法人 明石市社会福祉協議会

社会福祉法人 明石市社会福祉協議会

令和4年度 事業報告

令和4年度 事業報告

■ 社会福祉事業区分

I 法人運営事業拠点区分	・・・・・・・・・・・・・・・・	6 頁
II 地域・ボランティア活動事業拠点区分	・・・・・・・・・・・・・・・・	16 頁
III 共同募金配分金事業等拠点区分	・・・・・・・・・・・・・・・・	28 頁
IV 介護保険事業等拠点区分	・・・・・・・・・・・・・・・・	34 頁
V 基幹相談支援センター拠点区分	・・・・・・・・・・・・・・・・	36 頁
VI 後見支援センター拠点区分	・・・・・・・・・・・・・・・・	40 頁
VII 地域活動支援センター事業拠点区分	・・・・・・・・・・・・・・・・	46 頁

■ 公益事業区分

I 総合福祉センター管理運営事業拠点区分	・・・・・・・・・・・・・・・・	50 頁
II 総合福祉センター新館管理運営事業拠点区分	・・・・・・・・・・・・・・・・	54 頁
III 地域総合支援センター事業拠点区分	・・・・・・・・・・・・・・・・	58 頁



マークの記載がある事業は、共同募金の配分金を活用して実施した事業です。

令和4年度 重要事業の取り組み

(1) ボランティア・地域福祉活動の活性化

学生を対象とした「夏休み一日ボランティア体験」（全4回コース）を、ボランティア連絡会と協働で開催し、支援が必要な人の理解とボランティア活動についての学びを深め、今後の活動参加に向けたサポートを行いました。

また、社会福祉法人明桜会と協働で、知的障がい者をサポートするためのボランティア養成講座を開催し、余暇支援に関する学びを深めました。知的障害の人との関わりの中で、多くのことを理解するのに時間が必要なことなど、多くの気づきがあり、今後の活動継続に向けた組織化を進めることになりました。

(2) 重層的支援体制整備事業の推進

生活のしづらさを抱えた人や複合的な問題を抱える世帯等の相談を多機関協働事業者である地域総合支援センター本部で受け付け、事例の整理や役割分担、支援方針等について関係機関と協議し、継続的な支援を行い、事例対応するなかで、相談受理から終結までの基本的な支援の流れを具体化しました。

また、先進事例を明石市とともに視察し、その内容を本会内部において報告し、本格実施予定の令和5年度に向けて一体的に取り組めるよう、事業内容等を共有しました。さらに、支援対象者やその家族への支援として、アウトリーチ等を通じた継続的支援や参加支援の実施に向け、本会内部で協議をしました。

(3) 地域共生社会実現のための高齢者や障がい者等への理解の促進

認知症の理解促進については、オレンジサポーター（年104回）やシルバーサポーター（年4回）の養成講座の実施に加えて、あかしオレンジピアサポーターの創設にかかわり、認知症のある本人がいきいきと生活したり楽しんで活動している姿を発信し、認知症に対する偏見やイメージを地域社会から払拭できるよう努めました。

障がいの理解促進については、精神障がいに関する福祉学習では啓発ツールをつくり、現在地域住民を対象として実施しているところです。加えて、知的障がいについては福祉学習に活用できる啓発ツールを検討しました。

また、地域共生社会をすすめていく本会の内部の連携が必要なことから、各部署間の情報共有をすすめているところです。

(4) 社協体制の強化

地域住民等の様々なニーズや困りごとを的確に捉え、相談者の状況に応じた相談ができるよう、相談の基本姿勢やスクリーニング力の強化を図るため、全職員対象とした研修を実施しました。また、様々な資格を有する職員がいる本会で、職員が職種を超えて意見交換ができるセミナーを実施し、内部の連携や協働意識の高揚に努めました。

また、ホームページをリニューアルし、本会の活動はもちろんのこと、地区社会福祉協議会、ボランティア団体の活動についても広報を行いました。

■令和4年度 明石市社会福祉協議会

【決算概要】

(単位：千円)

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A) - (B)	備考
事業活動収支	収入	会費収入	11,796	11,064	732
		寄附金収入	1,120	2,700	△ 1,580
		経常経費補助金収入	132,065	118,528	13,537 未執行分返還
		受託金収入	251,979	240,457	11,522 未執行分返還
		貸付事業収入	11,937	10,400	1,537
		事業収入	2,235	1,011	1,225
		介護保険事業収入	667,198	632,116	35,082 未執行分返還
		障害福祉サービス等事業収入	24,960	24,838	122
		受取利息配当金収入	14	4	10
		その他の収入	855	1,204	△ 349
	事業活動収入計(1)		1,104,159	1,042,321	61,838
	支出	人件費支出	844,925	805,105	39,820 予算執行残
		事業費支出	143,719	128,650	15,069 予算執行残
		事務費支出	62,858	50,279	12,579 予算執行残
		貸付事業支出	5,443	5,443	0
		助成金支出	33,680	25,955	7,725 助成件数減
	事業活動支出計(2)		1,090,625	1,015,431	75,194
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		13,534	26,890	△ 13,356
施設整備収支	収入	固定資産売却収入	0	0	△ 0
		施設整備等収入計(4)	0	0	△ 0
	支出	固定資産取得支出	5,174	4,674	500
		固定資産除却・廃棄支出	60	59	1
		ファイナンス・リース債務の返済支出	3,186	3,185	1
	施設整備等支出計(5)		8,420	7,919	501
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 8,420	△ 7,919	△ 501
その他の収支	収入	長期運営資金借入金収入	5,000	5,000	0
		積立資産取崩収入	9,269	6,750	2,519 後見基金積立資産取崩収入減等
		その他の活動収入計(7)	14,269	11,750	2,519
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	5,000	5,000	0
		積立資産支出	25,994	23,708	2,286 退職給付引当資産、固定資産購入積立資産支出減等
		その他の活動による支出	125	121	4
	その他の活動支出計(8)		31,119	28,829	2,290
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△ 16,850	△ 17,079	229
	予備費支出(10)		580	0	580
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 12,316	1,892	△ 14,208	
前期末支払資金残高(12)		118,270	127,679	△ 9,409	
当期末支払資金残高(11)+(12)		105,954	129,571	△ 23,617	

■ 社会福祉事業区分

I 法人運営事業拠点区分

1 法人運営事業

法人の健全経営及び地域福祉の担い手としてふさわしい事業を、効果的かつ確実に推進できるよう、組織体制の強化に努めました。

1) 組織運営

新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めながら、理事会・評議員会及び各種委員会を開催しました。理事会・評議員会等の書面開催にあたっては、議案の概要を理事、監事及び評議員に個別に説明するなど、丁寧な対応をし、堅実な法人運営に努めました。

【理事会・監事監査】

会 議 名	開催日等	主 な 議 案	出席人数 (名)
監事監査	5月27日	・令和3年度事業報告及び決算監査 他	監事3名
第31回理事会	6月7日	・令和3年度事業報告・決算 ・理事及び評議員候補者の推薦 ・諸規程の改正 ・第22回定時評議員会の開催通知	理事9名 監事3名
第32回理事会 (書面決議)	提案日 9月9日 議決日 9月16日	・諸規程の改正 ・評議員候補者の推薦	全理事 13名 の同意 全監事 3名 の異議無の 回答
第33回理事会 (書面決議)	提案日 12月23日 議決日 1月10日	・理事候補者の推薦 ・令和4年度補正予算(案) など	全理事 13名 の同意 全監事 3名 の異議無の 回答
第34回理事会	3月8日	・安否確認事業の受託 ・令和4年度第2次補正予算(案) ・令和5年度事業計画・予算(案) ・諸規程の改正 など	理事10名 監事3名

第35回理事会 (書面決議)	提案日 3月28日 議決日 3月29日	・理事候補者の推薦	全理事 13名 の同意 全監事 3名 の異議無の 回答
第36回理事会	3月31日	・理事長の選定 ・副理事長及び常務理事の選定 など	理事 8 名 監事 3 名

【評議員会】

会 議 名	開催日等	主 な 議 案	出席人数 (名)
第22回評議員会 (定時評議員会)	6月28日	・令和3年事業報告・決算 ・理事の選任	評議員16名 理事 3 名 監事 1 名
第23回評議員会 (書面決議)	提案日 1月16日 議決日 1月25日	・理事の選任 ・令和4年度補正予算(案)	全評議員 20名の同意
第24回評議員会	3月30日	・令和4年度第2次補正予算(案) ・令和5年度事業計画・予算(案) ・理事の選任	評議員16名 理事 2 名 監事 1 名

【各種委員会】

委 員 会 名	開催日等	主 な 議 案	出席人数 (名)
評議員選任・ 解任委員会 (書面決議)	提案日 6月10日 議決日 6月15日	・評議員の選任	5名全員 の同意
	提案日 9月28日 議決日 10月3日	・評議員の選任	5名全員 の同意

企画財政総務 委員会 (書面決議)	提案日 2月28日 議決日 2月28日	・令和5年度事業計画・当初予算 ・第34回理事会提出議案	5名全員の同意
募金等配分検討委員会	開催(第1回) 7月19日	・赤い羽根共同募金及び善意銀行公募配分事業要綱の策定 外	7名
	開催(第2回) 2月22日	・令和5年度赤い羽根共同募金及び善意銀行公募配分事業配分審査 外	7名
地域・ボランティア活動委員会	開催(第1回) 9月20日	・本会の地域福祉活動の活動実績及び見込み	7名
	開催(第2回) 3月1日	・令和4年度地域福祉活動の取り組み ・令和4年度赤い羽根共同募金 ・令和5年度地域事業計画 ・令和5年度地域見守り安心プロジェクト	6名

2) 規程等の改正

会 議 名	規 程 名	改 正 内 容	施 行 日
第31回理事会	・指定特定相談支援事業運営規程 ・明石市基幹相談支援センター兼障害者虐待防止センター運営規程 ・相談支援事業所運営規程	厚生労働省令の改正により ①虐待防止委員会の設置、 ②従業者への研修実施、 ③虐待防止等のための責任者の設置 (義務化されたことによる変更)	7月1日
第32回理事会	職員就業規程	育児・介護休業法改正による育児休業の取得回数制限の緩和や産後パパ育休制度の創設等	10月1日

第34回理事会	理事・監事・評議員選出規程	評議員の選出区分の削除に伴う定数の変更、監事の選出区分に応じた定数の変更	令和5年 4月1日
	評議員選任・解任委員会運営細則	複数名の評議員の選任であっても書面決議を行うことができるよう変更	
	事務処理規程	地域支援課地域事業係に新たな事務の追加等	
	経理規程	厚生労働省通知に基づく変更及び会計区分の変更等	
	職員就業規程	労働施策総合推進法改正に伴うハラスメント防止に関する措置を規定	

3) 社協会員募集

住民や福祉団体等に対して、普通会費・特別賛助会費・施設団体会費への協力を依頼し、本会及び地区社会福祉協議会（以下、「地区社協」といいます。）の活動に必要な自主財源の確保に努めました。

また、会費の使いみちや本会の取り組みを会員の皆様に理解していただけるよう、地域で行われる会議において説明を行うとともに、広報紙「あかしの社会福祉」による広報活動を行いました。

【会費実績】

普通会費 (120円／世帯)	特別賛助会費 (2,000円／口)	施設団体会費 (5,000円／口)	合 計
9,431,730円	1,026,000円	605,990円	11,063,720円

4) 人事労務・人材育成

本会職員が中心となった組織体制の構築に向け、採用試験や研修、適切な職員配置を実施し、人事管理や人材育成に努めました。

【在職職員数】

(令和5年3月31日現在)

正規	市派遣	嘱託	契約	出向	合計
83名	9名	7名	64名	1名	164名

5) 広報啓発

本会が取り組む活動内容や地域福祉に関する理解を得ることができるよう、広報紙やホームページで啓発に努めました。また、ホームページにおいては、デザインの刷新、新機能の追加、ブラウザに応じた画面表示等のリニューアルを行いました。

6) 公益的取り組みの推進

社会福祉法人連絡協議会の参画を通じて地域貢献や地域福祉の推進に取り組むほか、フードドライブ事業等を実施しました。

① 社会福祉法人連絡協議会の運営

地域貢献及び地域福祉の推進を目的とする協議体として、市内に所在する社会福祉法人や施設が分野の垣根を越えて情報交換を行い、アフターコロナに向けた協議会の在り方や部会の再開などについて協議しました。

【加盟数】 市内28法人、48施設

【活 動】 ・役員会 第1回 令和4年4月21日
第2回 令和4年6月30日
第3回 令和4年10月13日
・総会 令和4年7月8日
・全体会 令和4年12月12日
・代表者等連絡会 令和5年3月23日

② フードドライブの実施

生活困窮世帯等への生活支援として実施しているフードドライブでは、市民や生活協同組合コープこうべ、ピーコックストア明舞店、第一生命保険株式会社明石支社から寄付された食料品を生活困窮世帯等に対して配付しました。

また、生活協同組合コープこうべの市内6店舗で集められた各家庭の余剰食品を配付する譲渡会を地域の福祉団体・事業所等を対象に2回実施しました。

【本会が直接払出を行った実績】

対 象	回 数
世帯・個人・福祉事業所 等	261回

【譲渡会の実績（生活協同組合コープこうべと協働実施）】

実施月	重 量	主な配布食材	配 布 先 (施設・団体・ グループ・世帯)
10月	816kg	米、調味料、 レトルト食品等	42件
2 月	708kg		44件
合計	1,524kg	—	86件

③ 保護司会事務局支援

明石市立総合福祉センター2階に設置している「あかし更生保護サポートセンター」を活動拠点に更生保護支援活動を行っている保護司会と連携し、「社会を明るくする運動」に取り組むほか、各種会議、研修会の開催等の事務局業務のサポートを行いました。

2 善意銀行

市民、企業、団体等からの善意の預託（金銭及び物品）の受付及び払出物品については、これらを必要とする団体や個人へ速やかに配布し、寄付金については、効果的に社会に還元するため、配分事業の公募を行い、募金等配分検討委員会での審査を経て、適正に払い出しました。

【預託実績】

種 別	延件数	内 容	寄 付 目 的 の 内 訳
金 銭	31件	2,039,085円	個人、匿名での定額寄付、企業・地域団体からの寄付等
物 品	123件	食料品、日用品、衛生用品等	個人や企業からの善意による寄付

【払出実績】

種 別	件 数	内 容	払 出 先
金 銭 (公募)	11件	533,000円	ボランティア団体・サロン・当事者団体・自治会等

【公募による金銭払出一覧】

区 分		団 体 名	払 出 内 容
1 2	事 業	明石市身体障害者福祉協会	高齢者慰問事業 会員交流事業
3	事 業	明石ともしび会家族会	ひきこもりの方も加えたところ やすらぐひろばの開設
4	事 業	アーバンふれあいサロン	サロン5周年記念行事及び 地域福祉活動
5	備品購入等	明石野々池マジッククラブ	交流事業に使用する備品購入
6	事 業	ふれあいサロン ルンルン	演奏会の実施
7	事 業	ふれあいサロン わくわく森田	敬老会の実施
8	周年記念	明石市肢体不自由児者父母の会	60周年記念講演会
9	事 業	ふれあいサロン ほほえみ	クリスマス飾り製作・交流活動 の充実
10	事 業	ぴあピザお茶会	ぴあピザぴあ茶話会
11	周年記念	西明石町連合自治会福祉部	「ふれあいサロンゆう・ゆう」 20周年の集い

種 別	件 数	内 容	払 出 先
物 品	81件	日用品、車いす 等	ボランティア団体、NPO法人 社会福祉法人、保育施設 等

3 資金貸付事業

県社協及び明石市より受託した事業で、低所得者、障がい者及び高齢者に対し、貸付と必要な相談支援を行うことにより、経済的自立及び生活意欲の助長促進並びに在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活を構築することを目的に取り組みました。

新型コロナウイルス関連貸付では、県社協から受託した新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した世帯を対象とした貸付の受付が令和4年9月末で終了し、令和5年1月から償還が始まっており、償還に係る手続き等の支援を行いました。

明石市の補助事業である生活資金貸付事業や学業資金貸付事業の償還事務については、借受住民・世帯の生活状況に配慮しながら、返済猶予等の事務を行いました。

【県社協からの受託事業】

事業名	申請件数	貸付件数	貸付金額
生活福祉資金貸付事業 ・福祉資金・教育支援資金	23件	23件	49,442,200円
総合支援資金貸付事業	0件	0件	0円
緊急小口資金貸付事業	5件	5件	500,000円

【明石市からの受託事業】

事業名	申請件数	貸付件数	貸付金額
生活保護家庭生活福祉資金 貸付事業	369件	369件	5,443,000円

新型コロナウイルス関連貸付実績

【県社協からの受託事業】

事業名	相談件数	申請件数	貸付金額
緊急小口資金貸付事業 (新型コロナウイルス特例貸付)	電話 778件	168件	28,140,000円
総合支援資金貸付事業 (新型コロナウイルス特例貸付)	来所 458件	162件	81,300,000円

(※) 新型コロナウイルス特例貸付の受付は令和4年9月末をもって終了

【明石市の補助事業】

事業名	貸付件数 (決定時)	償還中	期限未到来・ 返済猶予
生活資金貸付事業	17件	0件	16件
学業資金貸付事業	122件	65件	51件

(※) 貸付の決定は、令和2年度に行う（令和2年度の事業）。

4 新型コロナウイルスワクチン障害者等集団接種支援業務

障がいなどにより一般の会場でのワクチン接種が不安な方などを対象に実施した集団接種について、市からの委託を受けて、接種会場での受付、案内誘導などの業務を行いました。

実施時期	案内件数
令和4年4月	24件
令和4年7・8月	405件
令和4年11・12月、令和5年1月	424件

※案内件数は付添人を含む

5 その他の取り組み

- ・後援名義の許可：12件
- ・安全衛生委員会開催：毎月1回開催（産業医による職場巡視、健康教室等）
- ・社会福祉士実習生の受入れ

期間：8月16日～9月16日まで 計24日間 3大学3名

○社会福祉事業 法人運営事業拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘 定 科 目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考
事業活動収支	収入	会費収入	11,796	11,064	732
		寄附金収入	620	2,039	△ 1,419
		経常経費補助金収入	97,540	88,061	9,479 未執行分返還
		受託金収入	14,382	13,758	624
		貸付事業収入	11,937	10,400	1,537
		受取利息配当金収入	10	2	8
		その他の収入	609	608	1
		事業活動収入計(1)	136,894	125,932	10,962
	支出	人件費支出	99,733	90,562	9,171 予算執行残
		事業費支出	7,735	6,386	1,349 予算執行残
		事務費支出	17,133	13,797	3,336 予算執行残
		貸付事業支出	5,443	5,443	0
		助成金支出	7,399	4,904	2,495 助成件数の減
		事業活動支出計(2)	137,443	121,092	16,351
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		△ 549	4,840	△ 5,389
施設整備等収支	収入				
		施設整備等収入計(4)	0	0	0
	支出	固定資産取得支出	2,943	2,804	139
		固定資産除却・廃棄支出	33	33	0
		ファイナンス・リース債務の返済支出	2,580	2,579	1
		施設整備等支出計(5)	5,556	5,416	140
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 5,556	△ 5,416	△ 140
その他の収支	収入	長期運営資金借入金収入	5,000	5,000	0
		積立資産取崩収入	6,199	6,198	1
		事業区分間繰入金収入	0	474	△ 474
		拠点区分間繰入金収入	0	192	△ 192
		その他の活動収入計(7)	11,199	11,865	△ 666
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	5,000	5,000	0
		積立資産支出	4,581	4,050	531
		拠点区分間繰入金支出	2,674	2,026	648
		その他の活動による支出	23	22	1
		その他の活動支出計(8)	12,278	11,098	1,180
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△ 1,079	767	△ 1,846
予備費支出(10)		200	0	200	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 7,384	191	△ 7,575	
前期末支払資金残高(12)		92,287	98,546	△ 6,259	
当期末支払資金残高(11)+(12)		84,903	98,737	△ 13,834	

II 地域・ボランティア活動事業拠点区分

住民参加による地域福祉活動の推進に関する事業で、ボランティア活動の支援や相談調整、ふれあい会食、災害ボランティア体制の検討などに取り組むとともに、コロナ禍での活動継続に向けた情報発信などを適宜行いました。

1 福祉コミュニティ基金事業

1) ボランティア活動及び小地域福祉活動の推進

① ボランティア・福祉活動助成事業

市内を主たる活動拠点とし、年間を通じて計画的かつ継続的に活動を行なっているグループに対し、活動費の助成を行いました。また、コロナ禍での活動継続に向けた工夫をするグループが多いことから、感染症予防対策への支出も可能とするなど柔軟な活動助成に努めました。

【助成実績】

助成金名	助成件数	助成金額
ボランティア福祉活動助成金（運営）	75件	3,261,000円
ボランティア福祉活動助成金（研修参加）	0件	0円
ボランティア福祉活動助成金（周年行事）	1件	20,000円
ボランティア福祉活動助成金（資機材購入）	2件	71,070円
つどい活動助成金	19件	469,160円
サロン活動助成金（福祉コミュニティ基金分）	108件	3,142,500円
サロン活動助成金（赤い羽根共同募金事業分）	22件	730,000円
合 計		7,693,730円

② ボランティア・市民活動災害共済事業

ボランティア活動中の万が一の事故に備えるため、兵庫県ボランティア市民活動災害共済、兵庫県ボランティア活動等行事用保険などへの加入促進を図りました。また、保険加入時には事故防止の啓発と活動内容の把握に努め、ボランティアニーズの調整や新たなつながりづくりを意識した関わりを進めました。

【加入状況】

（兵庫県社会福祉協議会）

保 険 種 別		加入件数	加入者数
ボランティア市民活動災害共済	市民活動災害共済プラン	321件	3,745名
	天災危険補償プラン	21件	34名
ボランティア活動等行事用保険		26件	—
移送サービス交通傷害保険		0件	0名

(全国社会福祉協議会)

保 険 種 別		加入件数	加入者数
ボランティア活動保険	基本プラン	15件	235名
	天災・地震補償プラン	5件	7名
	特定感染症重点プラン	1件	9名
ボランティア行事用保険		137件	—
福祉サービス総合補償		12件	—
送迎サービス補償		1件	—

③ 地区社会福祉協議会支援

地域福祉活動の中心的な役割を担う地区社協に対して、コロナ禍での活動に関する情報の共有や、福祉学習の計画的な実施依頼などを行い、本会と協働で事業を進めるための基盤強化を図りました。地区社協が実施した取り組みなどを本会の広報紙やホームページで紹介するなど、地域住民への周知等を行いました。

また、地区社協の活動費に充てることができる「愛のあかし募金箱」の設置、車いすの貸出、パンフレットの配布などに協力いただく福祉協力店の開設を支援しました。(福祉協力店：44店舗)

④ 永年ボランティア表彰の実施

市内で5年以上ボランティア活動に従事されている元気高齢者への功績を称えるため、65名の方に対して「永年ボランティア表彰」を行いました。表彰式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、受章者代表として2名に、あかしボランティアフェスタの席上で表彰を実施しました。

2) ボランティア養成講座の開催

① ボランティア体験教室

ボランティアの育成を図るため、各種養成講座を開催しました。

また、身近なボランティア活動の啓発を目的とした、「ボランティア体験教室」を、地域ボランティアグループ及びふれあいプラザあかし西と協働で実施しました。

【開催講座一覧】

講 座 名	実 施 日	会 場	内 容	受講者数	修了者数
はじめての車いす ボランティア養成講座	6月14日 から 6月28日	明石市立 総合福祉 センター	体の不自由な人や高齢者が外出する際の車いす介助技術や心構えなどを学び支援活動に取り組むボランティア養成講座を開催しました。（計3回）	14名	13名
楽しいおりがみ ボランティア養成講座	9月9日 から 9月16日	ふれあい プラザ あかし西	折り紙という身近なレクリエーションを通じて、折る楽しさや、地域や施設などで行えるボランティア活動の周知を目指した講座を開催しました。（計2回）	5名	3名
はじめての手話 ボランティア養成講座	10月1日 から 10月22日	ふれあい プラザ あかし西	コミュニケーション手段の一つである手話を体験し、聴覚障がい者に対する理解を深めました。（計4回）	8名	8名
ボランティア養成のための 手作りおもちゃの講習会	2月8日 から 2月15日	明石市立 総合福祉 センター	布おもちゃの手作り体験を通じて、手作りおもちゃのボランティア活動の周知を目指した講座を開催しました（計2回）	10名	8名
入 門 講 座 「はじめての要約筆記」	2月3日 から 2月24日	明石市立 総合福祉 センター	聴覚障がい者（中途失聴・難聴者）に、話の内容や情報を文字で伝達する要約筆記の初歩的な技術の習得を目指した入門講座を開催しました。（計4回）	2名	2名
合 計				39名	34名

② 社会福祉法人との協働によるボランティア養成講座

社会福祉法人明桜会と協働し、「知的障がい者の余暇支援を考え・サポートするボランティア養成講座」を開催しました。知的障がい者の余暇支援が十分にできていないという課題を解決するため、ボランティア養成により担い手を増やすことを目指しました。知的障がいについての講座や体験を通しての学びにより、ボランティア活動への参加を決めるなど活躍の場が広がりました。（3回コース9名参加）

3) 明石市ボランティア連絡会との協働

明石市ボランティア連絡会の運営が円滑に進行するよう、役員などとの連携を密にし、明石市ボランティア連絡協議会が取り組む事業の支援を行いました。また、運営の財政支援として助成金を交付しました。（助成金額 1,500,000円）

① ボランティア連絡会諸会議の支援

会議の円滑化、事業の協働推進を目的として、各種会議に出席し、適宜相談に対応できるよう努めました。コロナ禍でのボランティアフェスタや校区ボランティア交流会の開催や事業の継続などに関する相談支援を行いました。

（主な会議）

役員会（毎月）、代表者会議（7月、9月、12月、3月）、合同会議（6月）
その他（適宜）

【ボランティアセンターグループ登録状況】

分野区分	主 な 活 動	グループ数	ボランティア数
技 術	障がいのある方や高齢者に対して必要な技術を生かした個人個人にあった支援活動	13グループ	308名
地 域	小学校区や自治会単位のグループで地域住民の支援活動を目的に友愛訪問やサロン開催などの活動	31グループ	841名
施設・環境	福祉施設や個人宅等への訪問、技術奉仕、自然保護や環境保全、清掃奉仕等の活動	16グループ	205名
教 育	居場所づくりなど子育て支援や、教室の開催等学び支援	9グループ	115名
文化・健康	特技・趣味を活かしニーズに応じた文化活動、健康促進・啓発などの健康づくり活動	17グループ	258名
合 計		86グループ	1,727名

② 校区ボランティア交流会の開催支援

同じ地域に居住するボランティア同士の活動分野を越えた地域内での関わりや協力体制づくりを目的とした校区ボランティア交流会の開催を支援しました。地域ごとに、これまでのつながりが途切れてしまわないよう工夫を講じながら、コロナ禍でもできる活動を目指した協議を進め、すべての校区で開催することができました。

【各校区ボランティアによる交流会開催報告】

校 区	開 催 日	会 場	参加グループ数	参加者数
朝霧中	1月25日	あさぎり福祉センター	9グループ	22名
	「コロナ禍でのつながりづくり」をテーマに、フレイル予防について明石市地域共生社会室より講話をいただきました。当日は大雪のため、内容の変更がありましたが、フレイル予防の大切さについて学ぶことができました。			
大蔵中	11月29日	人丸小コミセン	13グループ	34名
	「地域の輪を広げよう」をテーマに、ボランティア連絡会登録グループ以外の、地域で活動しているグループや団体にも参加していただきました。グループ紹介やグループワークを通して大蔵校区のボランティアさんと顔の見える関係を築きました。			
錦城中	10月8日	上の丸会館	11グループ	38名
	「元気UP！一歩前へ」をテーマに、ボランティア連絡会登録グループ以外の、地域で活動しているグループや団体にも参加していただき、活動発表を行いました。コロナ禍の工夫を共有・グループ発表を通して校区の一体感を感じる交流会になりました。			
衣川中	10月15日	衣川コミセン	11グループ	45名
	「コロナを乗り越えさらなる発展へ」をテーマに、きんじょう・きぬがわ総合支援センターより講話をいただきました。ボランティア活動は、家族・仲間の支え合いが大事であることを学ぶことができました。			
貴崎小	1月15日	貴崎みんなの広場 ‘よっといで’	13グループ	40名
	「地域のつながりをみんなで考えてみよう」をテーマに明石市社会福祉協議会より講話をいただきました。日ごろから隣近所の付き合いを大切にすることが、災害時に助け合いができる関係づくりにつながることを学びました。			

花園小	2月4日	西明石サポーターイング ファミリー	6グループ	27名
	「ケアラー～だれもが人権を尊重される社会を～」をテーマに、ヤングケアラーについてのDVD「夕焼け」を鑑賞し、‘地域でいかにケアラーとつながるか’を参加者で考え、つながりを意識した交流会になりました。			
藤江小	1月29日	藤江小コミセン	12グループ	28名
	「災害時のボランティアの対応」をテーマに、防災士の指導のもと災害カードゲーム（クロスロードゲーム）を行いました。参加者同士交流ができ、シミュレーションすることで防災について改めて考えることができました。			
和坂小	11月19日	西明石町公民館	27グループ	48名
	「LGBTQ+より深くより詳しく」をテーマに、明石市政策局ジェンダー平等推進室より講話をいただきました。グループワークを通して、みんなが生きやすい社会について参加者全員で考えることができる交流会になりました。			
鳥羽小	10月12日	鳥羽小コミセン	5グループ	24名
	「認知症ってなあに？」をテーマに、にしあかし総合支援センターに講話をいただきました。認知症は他人事ではなく、我が事として、認知症の人や家族を支える手立てを学ぶことができました。			
沢池小	2月18日	野々池コミセン	10グループ	40名
	「もしもの時、まずは自助・互助・共助で命をつなぐ」をテーマに、高校生の自主防災チーム「TEAM-3A」に来ていただき、オリジナル防災ゲームを体験しました。防災すごろくを通して、問題や課題をたくさん話し合える交流会になりました。			
大久保小	11月26日	大久保小コミセン	17グループ	39人
	「みんなで楽しく防災すごろく」をテーマに、高校生の自主防災チーム「TEAM-3A」に来ていただき、オリジナル防災ゲームを体験しました。災害が起こった時の行動を考えて話し合うことができる交流会になりました。			
大久保中	9月17日	大久保コミセン	10グループ	37名
	「コロナを乗り越えみんなで挑戦」をテーマに、明石市総合安全対策室より講話をいただきました。災害時には、日ごろのつながりを活かした住民同士の助け合いが重要になることを参加者全員で共有できるような交流会になりました。			

山手小	1月22日	大久保北コミセン	16グループ	44名
	「私たちのグループができること」をテーマに、明石市総合安全対策室より講話をいただきました。風水害について身近な問題として捉え、日ごろのボランティア活動を災害時にどのように繋げ、発揮していくのか話し合える場になりました。			
江井島中	11月5日	江井島小コミセン	7グループ	19名
	「地域のことで学び出来るつながりをしよう」をテーマに、視覚障がいの方・聴覚障がいの方をサポートしているボランティアに活動のお話をさせていただきました。障がいを持った方に対してコミュニケーションの取り方を学ぶことができました。			
高丘中	9月24日	高丘中央コミセン	25グループ	43名
	「ボランティア活動をいきいき続けるために」をテーマに、コロナの最新情報やフレイルについての講話をいただきました。安全にボランティア活動を続けるための工夫について学ぶことができました。			
魚住東中	1月21日	魚住市民センター	10グループ	27名
	「チャレンジ！ニュースポーツ」をテーマに、うおずみ総合支援センターに講話をいただきました。社会参加のための体力作りの大切さについて気づき、ニュースポーツを通して人との交流について学びました。			
魚住中	10月8日	魚住市民センター	17グループ	39名
	「顔の見えるネットワークづくりに挑戦！！」をテーマに、レクリエーション用具を用いた交流や、うおずみ総合支援センターより講話、理学療法士による体操を教えてくださいました。共通の目的を持ち、楽しく一緒に取り組むことの大切さを実感する交流会になりました。			
二見中	7月9日	ふれあいプラザあかし西	15グループ	40名
	「楽しみながらみんなでできる健康づくり」をテーマに、明石市健康推進課より講話と体操を教えてください、コロナ禍での健康づくりや取り組みについて話し合いました。地域活動に取り組むためには心や身体の健康や、日ごろからコミュニケーションを大切にすることについて考える交流会になりました。			
合 計			234グループ	634名

③ ふれあいプラザあかし西ボランティア活動室の支援

毎月開催の事務局員会議（ボランティアによる運営会議）、連絡会議（ふれあいプラザあかし西に入居する各組織が参加）に出席し、情報提供を行いました。また、「わくわくサマーフェスタ」では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、午前・午後との2部制をとるなどの工夫をした上で、折り紙やレクリエーション用具の体験コーナーをボランティアグループと協働して担当しました。

その他、兵庫県ボランティア・市民活動災害共済の加入手続きを行う臨時窓口の開設や、子ども服のおさがり譲渡会を開催し、活動室の利用促進を行いました。

④ あかしボランティアフェスタの開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策をとりながら、3年振りに明石市立総合福祉センター本館・新館1階で開催しました。ボランティア体験コーナーや舞台発表、展示に加え、新たにレクリエーション用具の体験やユニバーサルスポーツ体験などのコーナーを設け、市民にボランティア活動を身近なものと感じていただくとともに、コロナ禍で思うように活動できないボランティア活動者のモチベーションの継続につながりました。新たな取り組みとして、舞台発表の様子をホームページで配信し、活動のPRに努めました。

4) ボランティアサポーターと協働した活動の推進

ボランティア活動の経験が豊富な人をボランティアサポーターとして委嘱し、ボランティア相談などの対応を協働で行いました。また、ボランティアサポーターで組織するボランティアサポーター協議会の定例会では、お互いの相談内容を共有するなど資質向上に関する取り組みを支援するとともに、相談対応力の向上を目指して、外部講師による研修や、楽しくボランティアをするための講演会をボランティア連絡会の会員も参加できる形で実施しました。

自主的な地区別勉強会では、地域活動での相談ブースの設置や地域のイベントに参加するなどボランティア活動の啓発を行いました。

また、運営の財政支援として助成金を交付しました。（助成金額 300,000円）

【ボランティアサポーター協議会】

（委嘱者）29名 （勉強会開催回数）46回 （相談対応件数）8件

（ボランティアサポーターによる相談窓口）

- ・ コーポ西明石2階 笑くぼ 毎月第1金曜日 12回
- ・ 魚住市民センター2階 相談室 毎月第2水曜日 12回
- ・ ふれあいプラザあかし西ボランティア活動室 毎月第3木曜日 11回
- ・ 総合福祉センター・あさぎり福祉センター 第3月曜日午後（不定期）4回

5) 認知症の人等を支え合える取り組みの推進

本会の運用する要援護者見守りＳＯＳネットワークは、外出中に道に迷う恐れがある高齢者等の家族から登録の申し出を受け、行方不明時に福祉関係専門職や民生児童委員等の特定協力者及びその他一般協力者へメールの一斉送信を行い、早期発見の一助としました。

また、協力者登録を個人だけではなく、本事業の趣旨に賛同し地域活動への協力が可能な事業者も登録できるようにし、事業所全体での認知症に対する理解促進へとつなげることが出来ました。

令和４年８月２６日には、コープ大蔵谷店で認知症の人への声かけ訓練を実施しました。認知症者役の福祉専門職が店内を歩き、声かけ役は訓練用メールに書かれた情報をもとに店舗周辺を見回り、対象者を見かけた際は優しく声をかけて保護につなげるという流れを体験しました。

【利用登録者、協力者、メール発信の状況】

利用登録者	特定協力者（※１）	一般協力者（※２）	メール発信回数
183名	315名	243名	４回

※１ 特定協力者：文字情報と写真を送信する協力者

※２ 一般協力者：文字情報のみを送信する協力者

2 ボランティア活動サポート事業

1) ボランティアセンターでの相談対応

ボランティア活動に関する相談だけでなく、サロン活動、ふれあい訪問活動、福祉学習、ボランティア・市民活動災害共済など幅広く相談支援を行いました。

また、ボランティアの支援を必要とする個人や団体からの依頼を受け、ボランティア活動に対する調整を行いました。依頼を受ける際には、相談者のニーズだけでなく、生活状況や身体状況などを聞き取り、ボランティア以外の、多機関との連携も意識して支援の輪が広がるようなつながりづくりに努めました。

夏休み中の学生を中心にボランティア活動に興味・関心を持ってもらうため、「夏休み一日ボランティア体験」を開催しました。要約筆記・音声訳・まちづくり防災（２回コース）の講座を開催し、支援が必要な方へのボランティア活動の実情や、自分の住む地域の課題などについて学びへつなげました。（４回コース ２７名参加）

【ボランティア等に関する相談件数】 537件（延件数）

【ボランティア新規登録件数】（個人）44件 （団体）27件

【ボランティア依頼調整件数】

依 頼 者	件 数	依 頼 者	件 数
本人	3 件	施設	7 件
家族	0 件	地域サロン関係	9 件
ケアマネジャー	6 件	自治会関係	3 件
地域総合支援センター	1 件	行政関係	2 件
病院	1 件	その他	8 件
合 計			40件

2) 災害ボランティアセンター事業

① 災害ボランティア事前登録制度

災害時にボランティア活動が効果的に行えるよう、災害ボランティア事前登録制度の周知と、登録の呼びかけを随時行いました。

② 災害ボランティアセンターの充実

災害時に迅速で効果的な活動展開が行えることを目的とした災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を明石市の総合防災訓練に合わせて実施しました。災害ボランティアセンターを明石市立総合福祉センター以外の場所で開設し、訓練場所まで災害ボランティアを移送する訓練を実施しました。訓練を実施したことで総合福祉センターが被災により使用ができない時の災害ボランティアセンターの開設場所や、災害ボランティアの移送に関する課題が把握され、より実効性のある災害ボランティアセンター運営マニュアルの改訂に結び付けました。

3 ふれあい会食事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、持ち帰りでの対応を中心に継続する会場、会食形式へと戻す会場と様々な対応となりましたが、安否確認のための訪問、集った際の状況確認、個々への配食など、各会場で工夫を凝らした事業の継続を支援しました。(助成金額 2,017,062円)

【実績】

中学校区	朝霧	大蔵	錦城	衣川	望海	野々池	大久保	大久保北	江井島	高丘	魚住東	魚住	二見	合計
会場数	3	2		7	2	3	1	1		3			1	23か所
食数	929	563		459	1,261	971	112	303		1,163			153	5,914食
ボランティア数	29	12		72	63	69	5	6		30			9	295名

4 意思疎通支援者養成事業

明石市からの委託を受け、朗読及び点訳ボランティアの養成講座を開催しました。

【実績】

講座名	実施日	会 場	内 容	受講者数	修了者数
音声訳ボランティア 養 成 講 座 (市委託事業)	9月15日 から 11月24日	明石市立 総合福祉 センター	視覚障がい者への音声による情報提供と社会参加の促進をめざし、朗読技術を基礎から学び、支援活動に取り組むボランティア養成を行いました。 (計10回)	6名	6名
点訳ボランティア 養 成 講 座 (市委託事業)	10月5日 から 11月30日	明石市立 総合福祉 センター	視覚障がい者への点字による情報提供と社会参加の促進をめざし、点訳技術を基礎から学び、支援活動に取り組むボランティア養成を行いました。 (計8回)	5名	3名
合 計				11名	9名

5 高齢者安否確認事業

〔事業開始前の準備行為〕

見守り訪問を行う見守りサポーターとして契約職員を4名採用しました。また、利用者（約3,800名）の情報整理後にルートマップを作成、必要物品を購入するなど、令和5年度の事業開始に向けて準備行いました。

○社会福祉事業 地域・ボランティア活動事業拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘 定 科 目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考
事業活動収支	収入	經常経費補助金収入	18,112	15,755	2,357 未執行分返還
		受託金収入	4,189	3,054	1,135 未執行分返還
		受取利息配当金収入	2	0	2
	事業活動収入計(1)		22,303	18,809	3,494
	支出	人件費支出	6,969	6,380	589
		事業費支出	3,521	2,295	1,226 予算執行残
		事務費支出	1,984	1,378	606
		助成金支出	12,149	10,781	1,368 助成件数の減
	事業活動支出計(2)		24,623	20,834	3,789
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		△ 2,320	△ 2,026	△ 294	
施設整備等収支	収入				
	施設整備等収入計(4)		0	0	0
	支出	固定資産取得支出	150	0	150
	施設整備等支出計(5)		150	0	150
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 150	0	△ 150	
その他の収支	収入	積立資産取崩収入	150	0	150
		拠点区分間繰入金収入	2,674	2,026	648
		その他の活動収入計(7)	2,824	2,026	798
	支出	積立資産支出	575	0	575
		その他の活動による支出	10	9	1
		その他の活動支出計(8)	585	9	576
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		2,239	2,017	222
	予備費支出(10)		0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 231	△ 9	△ 222	
前期末支払資金残高(12)		504	504	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)		273	495	△ 222	

Ⅲ 共同募金配分金事業等拠点区分



1 赤い羽根共同募金配分金事業

1) ふれあい訪問事業

高齢者や障がい者等が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、定期的に地域のボランティアが訪問し、対話や交流等を通じて閉じこもりや孤立化を防ぐとともに、地域住民の福祉活動に対する意識を高め、近隣での助け合いの輪を広げるための活動に対して助成を行いました。

(7地区、延訪問回数 4,188回、助成金額 672,000円)

2) 小地域福祉活動支援事業

身近な場所で、「無理なく」「気軽に」集う自主的な居場所活動に対して、活動費の助成を行いました。また、コロナ禍での活動継続に向けた工夫をするグループが多いことから、感染症予防対策への支出も可能とするなど柔軟な活動助成に努めました。

【サロン活動助成金（再掲）】

助成金名	助成件数	助成金額
サロン活動助成金（福祉コミュニティ基金分）	108件	3,142,500円
サロン活動助成金（赤い羽根共同募金事業分）	22件	730,000円
合 計		3,872,500円

3) 福祉学習推進事業

点字・手話・車いすなどの体験学習を、ボランティアの協力を得て実施するとともに、障がい当事者団体に協力いただき、障がいがある当事者との交流を推進しました。初めての試みとして、小学校の福祉教育担当教員を対象に、視覚障がいについての学びの研修会を開催しました。また、地区社協が主催する福祉体験学習について費用の助成を行いました。

(助成件数 7団体、助成金額 127,512円)

【実施状況】

区分	主催者	実施数	対象人数	内 容							
				点字	手話	車いす	ガイドヘルプ	音声訳	要約筆記	当事者との交流	精神障がい者支援
学校行事	小 学 校	23校	3,327名	20回	18回	21回	8回	1回	—	9回	—
	高等学校	2校	190名	8回	—	—	1回	—	7回	1回	—
地域行事	地区社協等	地区社協7地区	601名	2回	5回	3回	—	—	—	—	3回

4) 認知症当事者等集いの場運営助成事業

認知症の方々の「集いの場」を運営する『介護ボランティアたんぽぽ』の運営助成及び相談支援を行いました。(助成金額 200,000円)

また、配偶者や親などを介護している人々が集まり、自分の思いを発散できる場として「男性介護者のかたり場」を開催する際に、語りの時間に配偶者を「介護ボランティアたんぽぽ」でお世話してもらい、介助のことを気にせずに過ごすことができるよう協力をいただきました。

5) 車いす貸出事業

介助が必要な方の外出、病気やけがなどで一時的に車いすが必要な方等の生活を支援するために、総合福祉センターや地域の貸出拠点で車いすの貸出を行いました。

【貸出実績】

	貸出場所数	設置台数	貸出件数
総合福祉センター	1 か所	40台	164件
各 地 域	163か所	227台	1,152件

6) 福祉機器リサイクル事業

家庭で不用となった電動ベッドや車いすなどの福祉機器のうち再利用が可能なものを譲り受け、ボランティアの協力により点検整備した後に、必要とされる方に無償で譲り渡しました。

【福祉機器譲り受け・譲り渡し】

譲り受け数(新規)	譲り渡し数
97台(内、54台新規)	35台

【ボランティア点検整備活動】

活 動 回 数	活動延人数
17回	80名

7) 情報発信推進事業

【広報啓発活動実績】

○ボランティアセンターの広報

ボランティアセンターだより、ボランティアホームページ(毎月1回以上更新、必要に応じて随時更新)を通じて、助成金などの申請書類をダウンロードできるように整備したほか、各種の助成金情報やコロナ禍での活動における注意点などを掲載し、ボランティア活動の側面支援ができるような情報発信に努めました。

○『あかしの社会福祉』年4回発行(各号13,000部)

(4月24日、7月20日、10月25日、1月25日)

○本会ホームページ更新

8) 各種団体配分事業

地区社協及び市内の地域福祉に関わる団体（高齢者、障がい児・者、児童・青少年等の各分野）に対して、活動支援を行いました。

（22地区社会福祉協議会 3,443,812円、22地域福祉団体 2,305,000円）

9) こども版公募配分事業

市内の小学校・中学校・養護学校・高等学校等に通う子どもたち自身が共同募金の使いみちを考え、学校や放課後児童クラブ等を通して公募申請を行うことができる取り組みで、学校生活を豊かにするための活動や備品の購入、地域の方々で行う行事などに対し費用の一部を助成しました。

共同募金が身近な場所で活用されていることを知ってもらうとともに、児童・生徒の福祉に対する意識を醸成する機会としました。

（2校：90,000円）

団 体 名		配 分 内 容
1	神戸大学附属小学校 学校キャンプ実行委員会	学内キャンプで使用する備品
2	あかしフリースペース☆トロッコ	音楽活動で使用する楽器

10) 公募配分事業

共同募金による支援が広く公平に行き渡るよう、市内を活動拠点とする地域福祉団体、市内全自治会・町内会に対して案内を行い、募金等配分検討委員会において助成額を審議決定し、地域の福祉活動に対する支援を行いました。

（7団体：537,000円）

団 体 名		配 分 内 容
1	市民会議「おおくら」ライムカフェ 運営委員会	認知症バーチャルリアル体験会の開催
2	特定非営利活動法人 陽だまりの会	ひきこもり及びその家族・支援者を対象としたオンラインによるサロンの拡大事業
3	明石市身体障害者福祉協会	会員及び視覚障がい者との交流会
4	二見地区社会福祉協議会	つながりと健康づくりをテーマとした事業
5	明石ろうあ協会	全日本ろうあ連盟創立70周年映画上映会
6	海辺の歌声喫茶運営委員会	居場所づくりのための海辺の歌声喫茶運営事業
7	特定非営利活動法人居場所	「リカバリーカレッジ」・「精神障がいと発達障がい、ひきこもり」ピアサポーター養成講座

2 歳末たすけあい配分金事業

1) 施設・団体等交流支援事業

歳末期に実施される地域や施設での交流事業や、地域での見守りが必要な世帯への訪問事業などに対して支援を行いました。

(95団体：2,165,050円)

○社会福祉事業 共同募金配分金事業等拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘 定 科 目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考	
事業活動収支	収入	経常経費補助金収入	16,413	14,712	1,701	一般募金配分金収入差異
	事業活動収入計(1)		16,413	14,712	1,701	
	支出	事業費支出	517	253	264	
		事務費支出	6,085	4,189	1,896	予算執行残
		助成金支出	14,132	10,270	3,862	助成件数の減
事業活動支出計(2)		20,734	14,712	6,022		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		△ 4,321	0	△ 4,321		
施設整備等収支	収入					
	施設整備等収入計(4)		0	0	0	
	支出					
施設整備等支出計(5)		0	0	0		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		0	0	0		
その他の収支	収入					
	その他の活動収入計(7)		0	0	0	
	支出					
その他の活動支出計(8)		0	0	0		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		0	0	0		
予備費支出(10)		380	0	380		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 4,701	0	△ 4,701		
前期末支払資金残高(12)		15,976	15,976	△ 0		
当期末支払資金残高(11)+(12)		11,275	15,976	△ 4,701		

Ⅳ 介護保険事業等拠点区分

1 居宅介護支援事業

要介護の状態にある高齢者や障がい者の居宅生活を支援するため、介護支援専門員（相談支援専門員）による、居宅介護支援（ケアプラン作成）事業、特定相談支援（障害福祉サービスなど利用計画作成）事業を行いました。

また、関連事業として、地域総合支援センターから委託を受け、要支援状態にある高齢者の介護予防ケアプランを作成しました。

【居宅介護支援事業（介護度別利用者延人数）】

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
410名	545名	270名	196名	86名	1,507名

【特定相談支援事業（支援別利用者延人数）】

利用支援 ※ 1	継続支援 ※ 2	合計
44名	65名	109名

※ 1 利用支援…初回の相談を受けて、障害者福祉サービスの利用計画を作成すること

※ 2 継続支援…前計画をチェックして、見直し計画を作成すること

【介護予防ケアプラン作成】

作成件数 729件

○社会福祉事業 介護保険事業等拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘 定 科 目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考
事業活動収支	収入	介護保険事業収入	28,576	28,663	△ 87
		障害福祉サービス等事業収入	1,664	1,542	122
		受取利息配当金収入	1	2	△ 1
		その他の収入	1	6	△ 5
		事業活動収入計(1)	30,242	30,213	29
	支出	人件費支出	25,698	24,406	1,292
		事業費支出	536	328	208
		事務費支出	3,980	3,741	239
		事業活動支出計(2)	30,214	28,475	1,739
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		28	1,738	△ 1,710
施設整備等収支	収入				
		施設整備等収入計(4)	0	0	0
	支出				
		施設整備等支出計(5)	0	0	0
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		0	0	0
その他の収支	収入				
		その他の活動収入計(7)	0	0	0
	支出	積立資産支出	1	1	1
		その他の活動による支出	27	27	0
	その他の活動支出計(8)		28	27	1
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△ 28	△ 27	△ 1	
予備費支出(10)		0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	1,710	△ 1,710	
前期末支払資金残高(12)		9,503	12,653	△ 3,150	
当期末支払資金残高(11)+(12)		9,503	14,363	△ 4,860	

V 基幹相談支援センター拠点区分

1 基幹相談支援センター兼障害者虐待防止センター運営事業

障がい福祉分野における相談支援の中核的な役割を担う機関として、総合相談・専門相談、権利擁護・虐待防止、地域の相談支援体制の強化などに取り組みました。

1) 総合相談・専門相談

相談内容は、障害福祉サービスだけでは解決が困難な複合多問題や虐待をはじめとする権利侵害などを含めて多岐に渡る相談が寄せられており、相談件数は年々増加傾向にあり、令和3年度に続いて本年度も10,000件を超えました。

【相談支援を利用した障がい者等の人数】

身体	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他	合計
57人	188人	244人	50人	4人	3人	2人	548人

【相談支援件数】

身体	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他	合計
1,025件	3,698件	4,612件	807件	73件	18件	10件	10,243件

2) 権利擁護・虐待防止

【障がい者虐待に関する相談・通報等の件数】

			通報義務に該当しない相談等				合計
養護者	施設従事者等	使用者	保育所等	学校	医療機関等	官公署	
31件	13件	0件	0件	0件	0件	0件	44件

【虐待の種別・類型（重複あり）】

	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	放棄・放置	経済的虐待	合計
養護者	17件	1件	10件	2件	6件	36件
施設従事者等	3件	1件	7件	2件	0件	13件
使用者	0件	0件	0件	0件	0件	0件

【被虐待者（疑い）の障がい種別（重複あり）】

	身体	知的	精神	発達	難病等	その他	合計
養護者	7件	13件	13件	1件	2件	1件	37件
施設従事者等	1件	4件	6件	0件	0件	0件	11件
使用者	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件

【明石市権利擁護・障害者虐待防止研修】

障害者福祉施設従事者等による虐待防止対策の一助として、オンデマンド型の研修を実施しました。市内障害福祉サービス事業所のうち115事業所が受講しました。また、障害福祉サービス事業所をはじめとする関係各所からの虐待防止を目的とした出講依頼にも可能な限り対応しました。

3) 地域の相談支援体制の強化の取り組み

相談支援専門員に対する実践現場における専門的な助言や指導（相談支援専門員が直面している困難な事柄を自ら解決できるような支援）、人材育成の支援（障がい特性の理解や相談援助技術の習得を目的とした研修会や事例検討会を毎月開催）、相談機関との連携強化（相談支援専門員間のネットワーク構築を目的とした相談支援連絡会を毎月開催）に取り組みました。

2 地域自立支援協議会運営事業

専門部会（くらし・しごと・こども）及び相談支援連絡会並びにサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者連絡会を新たに設置して、協議会に参画する地域の関係機関の連携の緊密化を図るほか、障害福祉サービスの提供等の実務を通じて把握した、①支援体制に関する課題、②既存の制度やサービスだけでは解決が困難な事象、③繰り返し起こっている類似の問題等をテーマ別に整理・集約し、運営会議で協議・検討するとともに、障害福祉サービスの提供内容に関する情報発信のあり方について、全体会へ問題提起しました。

【運営会議】

開催日	協 議 ・ 検 討 事 項	所 管
6月17日	令和4年度（2022年度）専門部会等活動計画（案） および専門部会委員候補者（案）について	事務局
9月2日	グループホームを知る機会の拡充と体験利用の運用改善について	くらし部会
12月9日	「明石市移動支援ガイドライン」への疑義照会	相談支援連絡会
	“チャレンジウィーク”の施策化に向けて	しごと部会
3月3日	障害福祉サービスの提供内容に関する情報発信のあり方について	こども部会

○社会福祉事業 基幹相談支援センター拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘 定 科 目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考
事業活動収支	収入				
	受託金収入	56,765	51,121	5,644	未執行分返還
	事業活動収入計(1)	56,765	51,121	5,644	
	支出				
	人件費支出	48,485	44,087	4,398	予算執行残
	事業費支出	4,533	3,789	744	
	事務費支出	1,368	1,127	241	
	事業活動支出計(2)	54,386	49,003	5,383	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	2,379	2,119	260	
施設整備等収支	収入				
	施設整備等収入計(4)	0	0	0	
	支出				
	施設整備等支出計(5)	0	0	0	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	0	0	
その他の収支	収入				
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出				
	積立資産支出	2,352	2,092	260	
	その他の活動による支出	27	27	0	
	その他の活動支出計(8)	2,379	2,119	260	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 2,379	△ 2,119	△ 260	
	予備費支出(10)	0	0	0	
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	0	0	
	前期末支払資金残高(12)	0	0	0	
	当期末支払資金残高(11)+(12)	0	0	0	

VI 後見支援センター拠点区分

1 後見支援センター運営事業

認知症や知的、精神の障がい等により判断能力が十分でない人や、支援や援護を必要とする人が住み慣れた地域で安全に安心して生活を続けられるよう、本人主体の観点から後見制度の利用支援や権利擁護支援を行い、総合的かつ積極的な権利擁護の推進を図りました。

事業としては、中核機関としての体制整備と機能強化を重点として後見・権利擁護の専門相談・専門支援、後見制度の広報・啓発、法人後見の受任、市民後見人等の養成や活動支援、後見基金の運用と後見基金事業の実施、関係機関との連携強化による支援体制やネットワークづくり、センターの運営・事業調整・受任調整委員会の運営、専門職バンクの登録及び後見人の申立・候補者の調整支援等を行いました。

① 後見支援センター相談支援実績

分 野	合 計
相談支援延べ件数	9,171件
相談支援実数	2,722件

② 法律専門相談における実績（法律職による来所相談）

	合 計
開催回数	44回
相談件数	74人

③ 後見制度の広報・啓発実績（地域の講座等への講師派遣・視察受入）

	合 計
研修会等への講師派遣	12回
視察の受入	2回

④ 専門職バンクの登録状況（令和5年3月31日現在）

弁護士	17人
司法書士	45人
社会福祉士	50人
社会保険労務士	10人
合 計	122人

⑤ 専門職バンクへの相談依頼件数 （合計：150件）

（職種／内容）	後見申立	後見受任	その他	合 計
弁護士	7 件	6 件	0 件	13件
司法書士	67件	43件	1 件	111件
社会福祉士	—	26件	—	26件
社会保険労務士	—	—	—	0 件
合 計	74件	75件	1 件	150件

⑥ 法人後見・監督の受任

平成28年度から市民後見人養成講座修了者の現場体験の受け皿等を目的として、法人後見の受任に取り組みました。これまで延べ14名の法人後見（6 人）及び監督人（8 人）に就任し、後見業務及び監督業務を行いました（平成30年 3 月に市民後見人第一号が誕生）。【令和 5 年 3 月 31 日現在】

	実数	延数				
			後見	保佐	補助	任意
法人後見	1 人	6 人	3 人	3 人	0 人	0 人
法人後見監督 (市民後見人)	7 人	8 人	2 人	6 人	0 人	0 人

< I 法人後見の受任歴一覧 >

	年齢	種類	居所	類型	就任日	終了日	備 考
1	78歳	高齢	病院	保佐	平成28年 6 月	平成 29年10月	死亡
2	57歳	知的	施設	後見	平成28年 6 月	平成30年 3 月	市民後見人へ移行 →Ⅱ－1 後見監督人
3	77歳	精神	病院	保佐	平成28年 6 月	令和 2年 6 月	市民後見人へ移行 →Ⅱ－3 後見監督人
4	85歳	高齢	施設	保佐	平成 29年12月	平成 30年12月	市民後見人へ移行 →Ⅱ－2 保佐監督人
5	67歳	高齢	施設	後見	平成 29年12月		
6	89歳	高齢	施設	後見	平成 29年12月	平成 30年1月	死亡

<Ⅱ 法人後見監督（市民後見人）の受任一覧>

	年齢	種類	居所	類型	就任日	終了日	備考
1	58歳	知的	施設	後見	平成30年3月		
2	85歳	高齢	施設	保佐	平成30年12月	令和元年3月	死亡
3	78歳	高齢	病院	保佐	令和2年6月		
4	74歳	高齢	在宅	保佐	令和2年7月		
5	85歳	高齢	施設	保佐	令和2年7月		
6	83歳	高齢	施設	後見	令和2年12月		
7	49歳	精神	在宅	保佐	令和3年1月		専門職との複数後見
8	82歳	高齢	在宅	保佐	令和4年8月		

⑦ 市民後見人等の養成や活動の支援

センターでは、将来、「市民後見人」をはじめ、地域福祉や権利擁護に携わる幅広い支援の担い手として活動する人材の発掘・養成支援を目的とする「市民後見人（市民サポーター）養成講座」を平成27年度から定期的に開催し、市民サポーター（養成講座修了者等）の活動支援、市民後見人の監督等の市民後見人の養成に取り組んできました。令和4年度は通算第4期目となる市民サポーター養成講座を開催し、7名が受講・修了しました。これまでに計4回、「市民後見人（市民サポーター）養成研修」を開催し、①養成研修修了者（67名）②市民サポーターバンク登録者（39名）、③市民後見人候補者（15名）、④市民後見人（8名）を輩出しました。市民後見人のフォローアップとして、市民後見人及び候補者等の勉強会を開催し事例検討や意思決定支援など市民後見人及び候補者同士の情報交換や後見業務等に関する支援のスキルアップを図りました。

2 日常生活自立支援事業（県社協受託事業）

判断能力に不安のある高齢者や知的・精神障がい者が地域で安心して生活できるように、福祉サービス利用についての援助や日常の金銭管理援助を行いました。また、利用者のなかで成年後見制度への移行が必要な方に対して、制度の申立や後見人候補者等の受任調整支援を行いました。

【令和4年度 日常生活自立支援事業の実績】

利用者数（年度末）	新規契約者数	解約者数
88名	19名	14名

- ・解約者のうち、成年後見制度へ移行支援した者：4名（約30%）
- ・利用者数のうち、生活保護受給者：57名（約65%）
- ・利用契約者に伴う生活支援員の訪問支援実績

訪問延回数	訪問延時間
2,180回	1,614時間

3 後見基金事業（自主事業）

後見制度の普及啓発、市民後見人の養成支援及び制度の狭間支援等の後見制度の利用促進を図るために、明石市社会福祉協議会に創設した後見基金を活用し、後見支援を適切かつ円滑に行うことができるように支援を行いました。

【令和4年度 後見基金の実績】

① 基金への寄附額（20件）	661,195円
② 基金からの支給および貸付額（13件）	546,108円
③ 基金の累積積立額（令和4年3月31日現在）	10,977,032円

4 明石市更生支援コーディネート事業

障がい者や高齢認知症者のうち、地域で自立した生活ができずに軽微な犯罪を繰り返す触法障がい者等が、地域で自立した生活ができ、犯罪を繰り返さないよう、地域の関係機関等と連携して支援を行いました。

【令和4年度 相談支援件数（実人数・延支援数）】

種別		実数	支援数（延）
支援内容	入口支援	27人	439件
	出口支援	10人	255件
	その他	11人	122件
合 計		48人	816件

※入口支援・・・刑務所には入所せず社会内で更生を図る対象者の支援

※出口支援・・・刑務所入所からの相談支援及び出所後の社会復帰支援

【実務者連絡会等の開催】

更生支援の支援機関（実務者）との連携強化を目的とした連絡会等を開催し、情報共有や意見交換等を行いました。

- ① 神戸地方検察庁明石支部との実務者連絡会【2回】
- ② 神戸刑務所との実務者連絡会【1回】

○社会福祉事業 後見支援センター拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘 定 科 目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考
事業活動収支	収入	寄附金収入	500	661	△ 161
		受託金収入	68,057	64,439	3,618
		事業収入	2,200	1,011	1,190
		その他の収入	100	35	65
		事業活動収入計(1)	70,857	66,146	4,711
	支出	人件費支出	56,014	53,334	2,680
		事業費支出	9,193	6,117	3,076
		事務費支出	5,532	5,128	404
		事業活動支出計(2)	70,739	64,580	6,159
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		118	1,566	△ 1,448
施設整備等収支	収入				
		施設整備等収入計(4)	0	0	0
	支出	固定資産取得支出	110	110	0
		施設整備等支出計(5)	110	110	0
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 110	△ 110	0
その他の収支	収入	積立資産取崩収入	2,920	552	2,368
		その他の活動収入計(7)	2,920	552	2,368
	支出	積立資産支出	2,919	2,000	919
		その他の活動による支出	9	8	1
		その他の活動支出計(8)	2,928	2,008	920
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△ 8	△ 1,456	1,448
	予備費支出(10)		0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	0	0	
前期末支払資金残高(12)		0	0	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)		0	0	0	

VII 地域活動支援センター事業拠点区分

障がい者が住み慣れた地域において、孤立することなく他者との交流を深め、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、創作活動や日常生活訓練の機会を提供する各種事業を開催しました。

※ 各種事業の開催においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館前の検温・マスクの着用・距離を保つことを基本として、事業毎に対策を講じました。

1) 創作・技能・適応訓練教室

点字、料理、編物、生花、陶芸、写真、書道、手話、囲碁・オセロ、体操、童謡・唱歌、パソコン絵手紙、スポーツ、折り紙細工、短歌、刺しゅう、英会話、ウクレレの19教室を開催しました。

実 施 回 数	307回
実 参 加 者 数	119名
延 参 加 者 数	2,666名

2) プール教室（機能訓練） ※中止

肢体不自由者を対象に、水中での機能訓練とレクリエーションを目的に開催する「プール教室」は、水中ではマスクが着用出来ず複数人による密着状態での介助が必要なことから、中止しました。

3) スポーツ・レクリエーションイベント

① 団体対抗！！ラダーゲッター記録大会

明石市の障がい者団体・施設等を対象に各々の事業所等で記録会を行い、合計点数を競い合う記録大会を実施しました。

参加団体の上位4チームで行う準決勝・決勝戦は総合福祉センターで開催し、大会の様子をネット配信でも観戦できるようにしました。

※ 「ラダーゲッター」はハシゴ状の枠（ラダー）にボールを投げて得点を競い合うニュースポーツです。）

開 催 期 間	予選 令和4年10月21日から令和4年11月21日まで 準決勝・決勝戦 令和4年12月8日
参加団体数	17団体
参 加 者 数	選手（障がい者）370名 スタッフ75名

② ユニバーサルスポーツ体験会

ユニバーサルスポーツへの関心を高めるとともに参加者同士の交流を図るため、体験会を実施しました。

※ 障がい当事者にユニバーサルスポーツを知ってもらうことを目的に、明石市障害当事者等団体連絡協議会と共催で行いました。）

開催日	令和4年9月24日
参加者数	44名 スタッフ29名（川崎重工業ボランティア 川友会、あかしパラスポネット等）

4) 障がい者スポーツ交流事業

① にこにこスイミング教室

障がい者及び高齢者の心身機能の維持や増進を図ることを目的に、毎月第3・4木曜日に開催しました。

実施回数	42回
参加者数	255名

② こども水泳教室

障がいのある子どもたちの健康の維持向上を図ることを目的に、こども水泳教室を開催しました。

開催日	令和4年 4月16日、5月7日、5月21日 6月4日、7月2日、7月16日
参加者数	70名

○社会福祉事業 地域活動支援センター事業拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘 定 科 目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考	
事業活動収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	23, 296	23, 296	0	
	事業活動収入計(1)		23, 296	23, 296	0	
	支出	人件費支出	10, 761	10, 639	122	
		事業費支出	12, 134	12, 086	48	
		事務費支出	401	378	23	
事業活動支出計(2)		23, 296	23, 104	192		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		0	192	△ 192		
施設整備等収支	収入					
	施設整備等収入計(4)		0	0	0	
	支出					
施設整備等支出計(5)		0	0	0		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		0	0	0		
その他の収支	収入					
	その他の活動収入計(7)		0	0	0	
	支出	拠点区分間繰入金支出	0	192	△ 192	法人運営事業への繰入金支出
その他の活動支出計(8)		0	192	△ 192		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		0	△ 192	192		
予備費支出(10)		0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	0	0		
前期末支払資金残高(12)		0	0	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)		0	0	0		

■ 公益事業区分

I 総合福祉センター管理運営事業拠点区分

市民の福祉向上と地域福祉活動の推進に寄与するため、自主運営事業を実施するとともに、貸館業務については、施設設備の維持管理に努め、利用者の利便性向上を図りました。

※ 各種事業の開催においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館前の検温・マスクの着用・距離を保つことを基本として、事業毎に対策を講じました。

1) 指定管理業務に向けた取り組み

本センターで取り組んできた各種教室などの事業、貸館業務及び維持管理業務などこれまでの実績等が認められ、令和5年度から5年間の指定管理者の指定を受けました。

2) 各種教室

障がい者及び高齢者を対象に各種教室を開催しました。

① 水中ウォーキング教室

心身機能の維持や転倒予防を目的に、プールでの適切な運動方法の相談・指導を毎月第2木曜日に開催しました。

実 施 回 数	11回
参 加 者 数	137名

② 水中リズム運動

心身機能の維持や回復を目的に、水中での簡単なリズム運動の指導を奇数月の第1木曜日に開催しました。

実 施 回 数	4回
参 加 者 数	41名

③ 入水相談

プールを効果的かつ安全に利用いただくことを目的に、看護師等が身体状況等を聞き取り、入水相談を実施しました。

相 談 者 数	86名
---------	-----

④ 太極拳教室

健康維持、増進を目的に太極拳教室を実施しました。

実 施 回 数	9回
参 加 者 数	255名

3) 施設の維持管理

日常の設備点検、清掃など適切な維持管理を行うとともに、体育室の電灯をLEDに交換するなど経費の節減に取り組みました。本館等に整備を予定していた空調機については商品の納入ができなかったことから3月から工事が始まりました。

4) 貸館事務（施設の利用状況）

プール、会議室・多目的体育室及び料理室等の貸館業務を行いました。

利 用 回 数	5,376回
利 用 者 数	58,170名

5) 交流イベントの開催

障がい者（児）とその家族及び高齢者を対象に、利用者同士の交流を目的に「フラダンス教室」及び「粘土細工教室」を開催しました。

開 催 日	令和4年 7月15日、11月29日
参 加 者 数	19名

6) 交流スペースの活用促進

オープン会議スペースを設けるなどいつでも誰もが気軽に利用できるよう開放しました。

また、「外国人の日本文化体験」「ボランティア体験」など本会で実施する研修の会場として利用してもらうなどPRに努めました。

7) 健康相談等事業

- ① 利用者を対象に、健康不安の解消を目的に受付窓口や温水プールにおいて看護師が健康相談を行いました。

相 談 者 数	294名
---------	------

- ② 障がい者及び高齢者を対象に、健康に対する意識を高めることを目的に健康教室（健康体操、健康相談）として「にこにこ粋・生き健康教室」を開催しました。

実 施 回 数	2回
参 加 者 数	26名

8) 障がい者事業所支援事業

障がい者の自立支援を目的に、ロビー等にて障がい者作業所等で授産するパンやクッキー、小物・雑貨等の販売コーナーを設置しました。

販 売 回 数	209回
---------	------

○公益事業 総合福祉センター管理運営事業拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘 定 科 目			予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考
事業活動収支	収入	受託金収入	83,586	83,097	489	
		事業収入	35	0	35	
		その他の収入	135	144	△ 9	
	事業活動収入計(1)		83,756	83,241	515	
	支出	人件費支出	26,872	26,626	246	
		事業費支出	56,135	55,524	611	
		事務費支出	749	618	131	
	事業活動支出計(2)		83,756	82,767	989	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		0	474	△ 474		
施設整備等収支	収入					
		施設整備等収入計(4)	0	0	0	
	支出					
		施設整備等支出計(5)	0	0	0	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		0	0	0		
その他の収支	収入					
		その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出	事業区分間繰入金支出	0	474	△ 474	法人運営事業への繰入金支出
		その他の活動支出計(8)	0	474	△ 474	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		0	△ 474	474		
予備費支出(10)		0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	0	0		
前期末支払資金残高(12)			0	0	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)			0	0	0	

Ⅱ 総合福祉センター新館管理運営事業拠点区分

共生の社会づくりの推進に寄与するため、誰もが参加しやすいようバリアフリーに配慮した事業を実施するとともに、貸館業務については、適切な施設設備の維持管理を行い、ギャラリーの開設や玄関前掲示板を設置する等、利用者の拡充と利便性の向上に努めました。

※ 各種事業の開催においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館前の検温・マスクの着用・距離を保つことを基本として、適宜用具の消毒、人数制限等の対策を講じました。

1) 地域共生社会推進事業

スポーツ等を通じた共生社会の理解促進を目的に1階多目的ホール、屋外多目的広場、ギャラリーを活用し、広く一般利用していただく他、誰もが参加できるスポーツの体験、教室を実施しました。

① スポーツ体験

随時開催（開館時）

（車いす卓球、車いすバスケ、卓球、卓球バレー、ボッチャ、フライングディスク、風船バレー、サウンドテーブルテニス、ブラインドサッカー、ストラックアウト、ラダーゲッター、モルック）

利用 者 数	4,901名
--------	--------

② スポーツ教室

毎月第1～第4木曜日開催

教 室 名	参加者数
ボッチャ教室	205名
卓球バレー教室	198名
スポーツインストラクターの 気まぐれ教室	311名

毎月第1、第3金曜日開催

教 室 名	参加者数
ストレッチ& ACEボール教室	211名

毎月第3土曜日

教 室 名	参加者数
ウォーキング教室	88名

③ レクリエーション

随時

利用 者 数	258名
--------	------

④ ギャラリーの開設

2階廊下及び交流スペースを活用し、障がい者等の作品を展示するギャラリーを運営しました。

展 示 回 数 (概ね1か月ごと)	11回
----------------------	-----

2) 障がい者就労支援カフェの運営

障がい者の社会参画による共生社会の理解促進を目的に2階交流スペースにて「軽食・喫茶なかま」を運営し、月2回の「みんな食堂」を開催しました。

・軽食・喫茶なかま

営 業 日 数	242日
利 用 者 数	7,532名

・みんな食堂

実 施 回 数	23回
参 加 者 数	309名

○公益事業 総合福祉センター新館管理運営事業拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘 定 科 目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考
事業活動収支	収入	受託金収入	25,000	24,988	12
	事業活動収入計(1)		25,000	24,988	12
	支出	人件費支出	3,232	3,229	3
		事業費支出	21,728	21,723	5
		事務費支出	40	36	4
事業活動支出計(2)		25,000	24,988	12	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		0	0	0	
施設整備等収支	収入				
	施設整備等収入計(4)		0	0	0
	支出				
施設整備等支出計(5)		0	0	0	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		0	0	0	
その他の収支	収入				
	その他の活動収入計(7)		0	0	0
	支出		0	0	0
その他の活動支出計(8)		0	0	0	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		0	0	0	
予備費支出(10)		0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	0	0	
前期末支払資金残高(12)		0	0	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)		0	0	0	

Ⅲ 地域総合支援センター事業拠点区分

地域共生社会の実現に向け、市内6か所の地域総合支援センターに、保健師、看護師、主任介護支援専門員、社会福祉士及び生活支援コーディネーターを配置し、高齢者だけでなく、障がい者、こどもを含む様々な支援を必要とする人とその家族に対して、総合的・包括的な相談対応を行いました。また、令和5年度から明石市で本格実施予定の重層的支援体制整備事業への移行に向けての取り組みもあわせて行いました。

1 総合相談支援事業

地域住民が住み慣れた地域で生活し続けることができるように様々な相談に対応しました。

実相談件数	延相談件数
14,504件	40,398件

2 権利擁護事業

判断能力の低下した高齢者や重層的な問題のある高齢者の相談に対応しました。

成年後見制度活用	高齢者虐待対応	金銭問題・消費者被害等
2,740件	4,099件	2,807件

居宅介護支援事業所を対象とした高齢者の権利擁護に資する講座を開催しました。

日 時	会 場	内 容
10月27日	明石市医師会館 多目的ホール	講師：法テラス兵庫 経済的困窮状態にあり判断能力の低下している方の法的支援について
12月1日	オンライン会場	

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

介護支援専門員の資質向上、ネットワーク構築に向け、担当圏域の居宅介護支援事業所と事例検討会等を以下のとおり開催しました（共催を含む。）。市域においては、「家族支援」を切り口に、「専門職の価値・倫理」をメインテーマにした研修会等を実施しました。

取り組みの種類	手 段	回 数
情報交換会（交流会）	オンライン型	4回
	参集型	13回
事例検討会	オンライン型	1回
	参集型	11回
事例検討会の振り返りの会	参集型	2回
学習会	オンライン型	1回
	参集型	12回
研修会（市域）	オンライン型	1回
	参集型	3回

また、地域の介護支援専門員からの個別相談の助言等の実施や、相談しやすい関係づくり等を目的に居宅介護支援事業所等に巡回訪問しました。

4 地域連携推進事業

1) 生活支援専門部会

専門部会を開催し、令和3年度までの取り組みから「担い手の養成と必要とされる活動」をテーマとして話し合い、令和5年度は解決策ごとのワーキンググループを発足させ、専門部会とワーキンググループでの検討を循環させることで課題解決に取り組むことに決まりました。

2) 在宅医療・介護連携専門部会

専門部会を開催し、身寄りのない人等が人生の最期に受たい医療や介護等について考えるきっかけとして、市民自身がもしもの時の備えができるようチェックシートを作成しました。

区 分	概 要	開 催 回 数 (書面開催を含む)
専門部会	合意形成・意思決定	2回
ワーキング	課題解決に向け計画に沿った取り組みの実践	6回
運営会議	ワーキング等取り組みの運営や方向性等の検討	3回

5 生活支援体制整備事業

地域の高齢者のニーズや社会資源の状況から、住民とともに課題を抽出し、その解決のために、新たな資源開発や、地域にある企業や団体等が特性を活かした連携を行えるよう、必要な働きかけや支援を地域・市域で実施しました。

1) 第1層生活支援コーディネーターの取り組み（市域エリア）

第2層生活支援コーディネーターの活動状況の報告等を通じて課題を抽出し、市域課題として以下のとおり整理しました。

- ① 障がいがある人の余暇活動ではフォーマルな制度のみでは十分な支援が得られない。福祉活動として余暇活動をサポートするボランティアの養成が求められる。
- ② 生活課題があり、所得が低い人や世帯が社会的孤立に陥っている。ゴミ出し、受診付き添いなどの生活サポートを切り口とした孤立解消を目的とした活動が求められる。
- ③ 福祉活動等の担い手が不足している。既存の養成講座群を再編し、実際の福祉活動へ入りやすい講座を体系的に実施することが求められる。

2) 第2層生活支援コーディネーターの取り組み（地域エリア）

日常生活圏域における集いや福祉活動の担い手と信頼関係を構築し、専門職との連携による支援や情報提供を行い、介護予防を目的とした活動を地域で展開しました。また、生活課題や生きづらさがある人の生活支援についてフォーマル、インフォーマルを問わないサポート体制を、その人に合わせて構築しました。

このような、活動を積み重ねることで、上記①～③の市域課題が見出されています。

3) 就労的活動支援の取り組み

高齢者の生きがいづくり・就労的活動、有償・無償の福祉的活動に参画する人材育成のため、市内の社会福祉法人と協力し、救命講習も含め、生活援助訪問型サービス従事者養成研修を実施しました。受講後の活動に結びつくよう、生活援助訪問型サービス提供事業所から業務説明を実施し、サービス従事者の登録が新たに2名ありました。

訪問援助型サービス従事者養成研修スケジュール

日 時	会 場
① 10月6日（木）	明石市民会館
② 10月12日（水）	
③ 10月20日（木）	
④ 10月21日（金）	（午前）明石市防災センター （午後）明石市立総合福祉センター

受講者数：12名

令和3年度に、市内社会福祉法人・135Eネット・ASKに地域貢献に関するアンケート調査を行い、高齢者・障がい者の福祉的就労活動（有償福祉活動）や就労希望への受け入れに関する質問項目で、「福祉的就労活動（有償福祉活動）」や「就労希望」の受け入れが可能と回答した施設に対して、令和4年度はヒアリングを実施しました。

（9施設に対してヒアリング 高齢者：4 障がい：2 児童：3）

その結果、新型コロナウイルス感染症への感染拡大が収束すれば、福祉的就労も含め積極的に検討ができる社会福祉法人が特定され、協力体制構築が出来ました。令和5年度は綿密な連携のもと、活動を具体化していきます。

6 認知症総合支援事業

早期の相談や予防の重要性について周知するとともに、認知症相談窓口において本人や家族等からの相談対応、社会資源や支援機関の情報提供等を窓口又は訪問による面談及び電話対応で行いました。

また、認知症の正しい理解の啓発のため、オレンジサポーター養成講座の実施や若年性認知症の家族会のサポートを行うとともに、男性介護者が孤立しないよう「男性介護者のかたり場」を開催しました。

【相談件数】

初回相談	継続相談	総件数	初期集中支援導入
958件	7,458件	8,416件	7件

【相談方法の内訳】

電話相談	来所相談	訪問相談	その他
5,935件	849件	1,075件	557件

【オレンジサポーター養成講座実施件数】

開催数	養成人数
104回	2,912人

7 在宅医療・介護連携推進事業

地域の在宅医療と介護連携を支援するため、地域総合支援センター本部に相談窓口を設置し、医療や介護の専門職からの相談対応を行いました。

内 訳					相談総数
日常の療養生活の支援	急変時の対応	看取り支援	入退院支援	その他	
19件	1件	4件	6件	4件	34件

8 地域支え合い活動促進事業

地域の高齢者が主体的に担い手となって取り組む支え合い活動を支援するとともに、その担い手なる活動者の養成を行った。

1) 「はじめての地域活動講座」の実施

	内 容	開催日	参加者数
第1回	「誰かのためは自分の健康につながる！活動の効果とは」～フレイル、介護予防、認知症予防なども含めて～	8月31日	10名
第2回	「制度だけではかゆいところに手が届かない！生活支援の現状と課題」	9月21日	
第3回	「地域で行われている様々な活動！」～実際に活動されているかたの声～	9月28日	
第4回	「活動やこれまでの振り返り」	2月17日	

2) 「はじめての地域活動講座」の効果

参加者の活動先
● フードドライブ（仕分けボランティア） ● 各地域総合支援センターでの健康測定会等の取り組み ● 地域での集い、サロン、自主活動など小地域福祉活動 ● 認知症カフェ、キャラバンメイト養成研修、オレンジサポーター養成講座等認知症に関する活動

地域での活動を広げるきっかけづくりとして、「はじめての地域活動講座」では「支え合いの大切さ」「施設入所後の生きがい」「認知症のある人の尊厳」について意見交換され、参加者から、「高齢者施設でのボランティアをしたい」「できる範囲でできることを行うが大切だと分かった」「今後も継続して話し合いを行いたい」等の感想をいただきました。

9 多機関の協働による包括的支援体制構築業務

生活のしづらさを抱えた人や複合的な問題を抱える世帯などの相談を受け、「たらい回し」といった事態が生じないように、包括的に受け止める総合的な相談支援体制を構築するため、多機関協働事業として検討すべき事例を多機関協働事業者である地域総合支援センター本部で受け付け、事例の整理や各機関の役割分担、支援方針等について話し合い、継続的な支援を行いました。

<受理会議>

・7回／年

<評価会議>

・12月から毎月開催 4回

<支援件数（令和5年3月時点）>

・世帯数 7件／年

10 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業

担当地区内の要支援1・2認定者や生活機能の低下している高齢者を対象に、身体機能の強化等により、介護状態となることへの予防を目的に、介護予防ケアプランの作成・評価を実施しました。また、法令遵守の徹底やケアマネジメント実践力の向上に向けて、本会で作成したプランの総点検を実施し、実践の振り返り等を行いました。

1) 介護予防支援

包括担当 給付件数	内 訳		一部委託 給付件数	活動別件数（対象者・関係者）		
	新 規	継 続		訪問・面談	連絡調整	担当者会議
12,914件	251件	12,663件	23,147件	13,258件	73,606件	2,427件

2) 介護予防ケアマネジメント

包括担当給付件数	内 訳		一部委託給付件数
	初 回	継 続	
6,910件	223件	6,687件	10,403件

（備考）

介護予防支援・介護予防ケアマネジメントを実践するなかで、不適切な対応が発生しました。本会で調査した結果、利用者及びその家族へのサービス提供に不利益は確認されませんでした。今後の適切な実践に向けて改善に努めてまいります。

主な不適切内容や今後の改善策は、以下のとおりです。

【主な不適切内容】

- ・支援経過記録に訪問や電話連絡等の不記載
- ・介護予防サービス・支援計画書の未作成
- ・介護サービス導入前のサービス担当者会議の未開催

【改善策】

- ① 本会で作成したプランの総点検
- ② 法令遵守のための研修会の実施
- ③ 自己点検の徹底及び本会内部での点検制度の実施

○公益事業 地域総合支援センター事業拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘 定 科 目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考	
事業活動収支	収入	介護保険事業収入	638, 622	603, 452	35, 170	未執行分返還
		受取利息配当金収入	1	0	1	
		その他の収入	10	410	△ 400	
	事業活動収入計(1)		638, 633	603, 863	34, 770	
	支出	人件費支出	567, 161	545, 842	21, 319	予算執行残
		事業費支出	27, 687	20, 148	7, 539	予算執行残
		事務費支出	25, 586	19, 886	5, 700	予算執行残
	事業活動支出計(2)		620, 434	585, 876	34, 558	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		18, 199	17, 987	212		
施設整備等収支	収入	固定資産売却収入	0	0	△ 0	
	施設整備等収入計(4)		0	0	△ 0	
	支出	固定資産取得支出	1, 971	1, 760	211	
		固定資産除却・廃棄支出	27	26	1	
		ファイナンス・リース債務の返済支出	606	606	0	
	施設整備等支出計(5)		2, 604	2, 393	211	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 2, 604	△ 2, 393	△ 212		
その他の収支	収入					
	その他の活動収入計(7)		0	0	0	
	支出	積立資産支出	15, 566	15, 566	0	
		その他の活動による支出	29	28	1	
その他の活動支出計(8)		15, 595	15, 594	1		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△ 15, 595	△ 15, 594	△ 1		
予備費支出(10)		0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	0	0		
前期末支払資金残高(12)		0	0	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)		0	0	0		

